

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	ホーム開設時に定めた理念であり、当時の職員は現在2名しかいないため、どのように話し合いをもってきめたか知らない職員が多い、内容も分かりづらい。	新しい理念を定める。	実践に繋がりがやすく、内容が分かりやすい理念を職員と話し合ってつくる。	6ヶ月
2	6	身体拘束の勉強会を行っているが、しっかりと説明ができるほど理解はしていないところがある。	全職員が身体拘束について再度勉強し理解をする。	身体拘束について勉強会をもち、朝礼での周知をしていく。	6ヶ月
3	36	職員が慣れ合いの態度をとってしまいがちになり又、プライバシーの配慮にかけていることがある。	認知症という病を患っていても、人生の大先輩である、という意識をしっかりと持ちながら支援を行う。	職員会議にて問題視しなければいけない点を討議する。職員間で注意していく。	6ヶ月
4	40	食事は検食者(書くユニット1名)のみ提供されるため、検食者以外は弁当持参になり、利用者とは異なったメニューになるため一緒に食事をする、不穏になられる利用者があるため一緒に食事がとれないでいる。	利用者と一緒になりに食事をする。	検食者以外にも食事ができるように検討する。	6ヶ月
5	10	家族の方々が高齢であり、面会以外の訪問が難しい、家族会はあるが家族会はほとんど行われていない。	定期的に家族会を開催する。	行事見学後に集まっていただけ環境をつくり、施設側からも積極的に働きかける。	6ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。